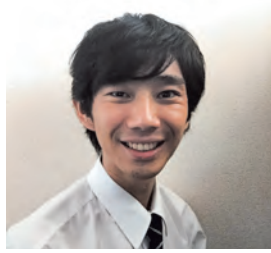


From
ACP
(米国内科学会)
Japan Chapter

人生を変えたACP



白河厚生総合病院
初期研修医

森 博隆

米国年次総会に参加

ACPは人生を変えます。

私は、昨年、信州大学医学部6年生だったときに、ACP日本支部年次総会2016で開催されたポスター・エ

ACP日本支部年次総会では毎回、ポスター・エキシビションを開催し、優秀者を表彰している。2016年にBest Abstract Award Student部門を受賞した森博隆氏は副賞として米国内科学会ACP年次総会に参加する資格を得た。同総会への参加はかなりエキサイティングだったようだ。

エキシビションに参加しました。結果、Best Abstract Award Student部門受賞という身に余る光栄に浴し、その副賞として今年3月末に開催された米国内科学会ACP年次総会に出席してポスター発表をする榮譽を得ました。

今年の米国内科学会ACP年次総会は、カリフォルニア州サンディエゴにあるテニスコート926個分(！)の広大な敷地の中に72のミーティングルームを持つ、3階建てのコンベンションホールで行われました。

美しいサンディエゴの陽光のもと、米国以外にもさまざまな国から人々が

集まり、まさに年に一度の「祭典」といった雰囲気がありました。

刺激的なセッションの数々

同総会は、セッション数が200コース以上にも上り、そのうち1日コースが13もありました。テーマは、珠玉のクリニカル・パールを学ぶものから歴史、教養まで幅広い領域に及んでいます。身体診察やハイテク技術を駆使したシミュレーターを使ったワークショップも17コースあったほか、東京ドームほどもある展示ホールでは、ポスター・エキシビションが開かれるとともに、200以上の医療機器会社が新型の製品を紹介していました。加えて米国でのキャリアアップの相談、上級医による日常臨床のアドバイスを求められるブースなども設置されていました。一部のコースは受講料が必要でしたが、多くのセッションは無料で自由に参加でき、まさに同総会での学びは無限にあり、そのどれもが最新で、エキサイティングでした。

同総会で、もっとも盛り上がったイベントが「Doctor's Dilemma」です。若手のACP会員チームによるトーナメント形式のクイズ大会で、出場チームは各々のChapter(支部)を代表し誇りをかけて熱闘していました。正解するごとに応援に駆けつけた仲間や先生方が熱心に声援を送っており、私も

日本支部代表を応援しました。

一方で厳かで伝統的な式典もありました。ACPの「Master(MACP)」や「Fellow」を新たに認定し祝福する場である「Convocation」です。今年、MACPを授与された日本人は福原俊一先生(京都大学大学院教授)おひとりで、日本人としては5人目のことでした。思えば、福原先生にお目にかかれたのもACPがご縁でした。昨年の日本支部年次総会で握手できたときの感激もさることながら、今回の式典でMACPに選出され壇上でお名前が呼ばれた際には、「すごい！」と感動と興奮を覚えました。同時に、いつしか不肖の弟子として自分もそこに立とうというミッションが芽生えました。

仲間と経験を分かち合う

今回の米国内科学会ACP年次総会への出席を通じ



Convocationの様子

MESSAGE

ACP日本支部長
上野 文昭

「ACPは人生を変えます」。森博隆君による米国ACP年次総会参加体験記の冒頭を読んだ瞬間、身震いを覚えました。それは喜びと重圧感が入り混じったものです。感性あふれる若き医師が、短期間にACPのすばらしさを十分にわかってくれたことを喜ぶ一方、日本の医療の将来を担う若者を健全な方向へと導かなければならない責任が重くのしかかってきました。

それにしても彼は本当に見るべきところをよく見て、感じ取るべきところをよく感じ取っています。同総会のすべてがこの体験記に凝縮されています。伝統と自由、量と質、人間の知恵とハイテクといった、本来ならば相反する要素が見事に調和しているのが同総会です。

読者の皆さんは、ぜひ日本支部年次総会に参加してください。海外に行けなくても、ACPのエッセンスに触れられる場が日本にもあるのです。また、日本支部のレジデントフェロー委員会が主催する医学生・研修医向け教育セミナーの第2回が10月に開催される予定です。ACPと直接触れ合う機会を逃さないようにしましょう。ACPでは、講師も受講生も同じ仲間なのです。すばらしいACPの仲間と出会うとき、あなたの人生は変わります！

医学生・研修医向けセミナー 「あなたも世界の内科医に！」を開催

4月16日、ACP日本支部レジデントフェロー委員会が主催する医学生・研修医向けセミナー第1回「あなたも世界の内科医に！」が東京・日本橋で開催されました。

本セミナーは、医学生、初期研修医、内科後期研修医（卒後5年目まで）を対象とし、世界水準の内科医となるため、内科医としてもっとも基本的な最新の診療スキルを身につけるとともに、症例報告から一歩進んだ臨床研究を行うための研究デザインを学ぶもので、予想を上まわる受講者が出席し、たいへん盛況でした。

今秋には、本セミナーの第2回が開催される予定です。詳細は下記をご覧ください。

【日時】10月22日

【会場】グランフロント大阪（大阪・梅田）

【詳細】会場や開催時刻などの詳細は決定次第、

ACP日本支部ウェブサイト随時告知

<http://www.acpjapan.org/>

て、ACPには、ほかにはない創造的なビジョンがあると思いました。それはACP会長（当時）のNitin S. Dandle先生の言葉に集約されています。——ACPにはネットワークをつくる多くの機会があります。そこであなたは「Peers」と出会い、患者さんにより良いケアをするための経験やアイデアを「share」できるのです——

この言葉のとおり、ACPは上下関係のないpeersが集まる会であると感じる出来事がたくさんありました。たとえば、レセプションでのエピソードが挙げられます。私がポスター発表をする前の晩、日本支部が主催したレセプションに米国のそうそうたる先生方がいらっしやいました。「これは明日の発表のアドバイスをもらえる、また、お話しできるチャンスだ」と、緊張しつつも挨拶に行きました。

すると先生方は、その肩書きのイメージからは想像できない、フレンドリーで気さくな姿勢で迎え入れてくださり、さらに先生方のpeersを次々に紹介してくださいました。私をpeersの一員として認めてくれたのだと思うと胸が熱くなりました。そして、翌日の発表は「こうすべきだ」と教え込むのではなく、私が理解できるようにゆっくりとした英語で自らの経験をshareしてくださったのです。



左からMACPの称号を授与された福原氏、日本支部長の上野文昭氏、日本支部Secretaryの前田賢司氏

明くる日のポスター発表では、3人の審査委員の前でプレゼンテーションを行いました。彼らのユーモアあるフールドバックはとても丁寧で建設的、かつ創造性にあふれていました。そうした対応は、何よりpeersとして応援するというあなたがかい心からきているのでしょうか。

「大海を知りたい、自分を変えたい」と願う医学生、研修医の方々には、ACP日本支部への入会や年次総会への出席をおすすめします。日本で、多く読者の方々と交流させていただけたら幸いです。